本町の教育指標：「進取の気象」「国際性」「社会貢献」

嘉手納町 教育委員会だより

令和８年１月発行　嘉手納町教育委員会

人生の「正解」を自らの手で　嘉手納町「はたちの集い」開催

１月 11 日、かでな文化センターにて、令和８年「はたちの集い」が開催され、106 名の新成人が門出を迎えました。浦崎直哉教育長は式辞で、「自分自身の人生の経営者たれ」と激励。「人生に唯一の正解はない。選んだ道を自らの手で正解にしていくことが大切だ」と、主体的に人生を切り拓く覚悟を問いかけました。新成人代表の挨拶では、家族や地域への感謝とともに、「支えられる側から、沖縄を支える大人へ」という力強い決意が述べられました。会場は、誇らしげな表情と未来への希望に包まれました。彼らの前途が、自らの手で切り拓く「正解」で満ち溢れることを切に願います。

【快挙】嘉手納から世界一！ブレイキン RICO さんが町長表敬

●世界最高峰「Red Bull BC One 2025」で頂点に

12 月 26 日、本町出身のダンサー・津波古梨子さん（RICO）が役場を訪れ、ブレイキンの世界大会優勝を當山町長と浦崎教育長に報告しました。RICO さんのパフォーマンスは、圧倒的な「柔軟性」と「スピード」を兼ね備え、誰にも真似できない独自の世界観を創り出すことで知られています。RICO さんは、専属のコーチをつけず、日々の練習メニューから目標設定まで、すべてセルフプロデュースで取り組んできました。自律した精神こそが、勝負の瀬戸際で輝く「独自性」の源泉となっています。大会での活躍の一方で、RICO さんは現役の大学生としての顔も持ちます。「学業と競技の両立は決して簡単ではない」と語る彼女ですが、世界で戦う中で痛感したのがコミュニケーションの重要性でした。「世界中のダンサーと深く繋がりたい」。その一心で、英語を学ぶために大学へ進学。さらに来年には、語学力を一層磨くため、カナダへの留学を予定しています。世界を舞台に挑戦を続ける RICO さんは、町の子供たちにとっても大きな希望の光となっています。

嘉手納小学校で公開研究会「生成AIとDXで拓く新しい学び」

●「教えられる学び」から「自ら学ぶ」へ。嘉手納町は新しい学びへチャレンジしています。

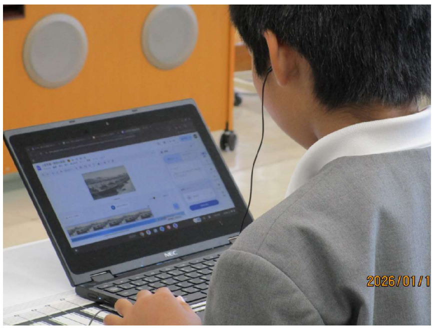
1月19日、嘉手納小学校にて、文部科学省指定の「リーディングDXスクール」および「生成AIパイロット校」としての公開授業・研究会が開催されました。町内の全教職員が参加した今回のテーマは、「探究の質を高める授業づくり」。子どもたちがデジタル端末や生成AIを使いこなし、自ら問いを立てて深く考える姿が公開されました。

ここがポイント！嘉手納の教育

◆生成AIの利活用・・・AIを対話の相手とし、自分の考えを深めるツールとして活用。

◆個別最適な学び・・・・一人ひとりのペースや興味に合わせた学習環境をクラウドで実現。

町教育委員会では、タブレット端末を「文房具」のように使いこなし、主体的に学ぶ子どもたちの育成を今後も強力に推進していきます。



デジタルで描く「災害に強い未来防災都市・嘉手納町」

1月29日、かでな未来館にて、本町の子供たちがデジタルの力を駆使して未来を提案する「令和7年度嘉手納町プログラミング力育成事業成果報告会」が開催されました。会場には、嘉手納小学校と屋良小学校の代表児童が集結。プログラミングソフト「マインクラフト」を活用し、「災害に強い嘉手納町」をテーマにした壮大なシミュレーション作品を発表しました。単にゲームを楽しむのではなく、プログラミングを通じて社会課題を解決する。それが本事業の醍醐味です。児童たちは、もし大規模な災害が起きたらどこに避難し、どのような施設・設備が必要になるかを徹底的に考察。これらを仮想空間で見事に具現化しました。自らの手で町を「つくり」、論理的に「考え」、他者に「伝える」その姿は、まさに未来のクリエイターそのものでした。

響け「よいしょ！」の歓声、新春の福を搗(つ)き上げる

1 月 25 日、ロータリー広場にて「第 21 回新春もちつき大会」が開催されました。嘉手納町青少年健全育成協議会（町青少年指導員）が主催し、子どもたちの健康を願う地域の大人たちが一堂に会しました。会場には嘉手納中学校吹奏楽部の音色が響き、中学生ボランティアや地域団体が一致団結して運営をサポート。「よいしょー！」の掛け声とともに搗き上げた 100kg のもち米と、約 800 食のお雑煮は、集まった多くの町民により完食となる大盛況ぶりでした。世代を超えた交流を通じ、嘉手納の絆を再確認する輝かしい新年の幕開けとなりました。

嘉手納の空手少女、九州制覇！目指すは初の「小学生日本一」

嘉手納小学校 4 年の伊礼琉愛（いれい・りあ）さんが 1 月 22 日、町長らを表敬訪問し、「第 12 回全九州少年少女空手道場選手権大会」での優勝を報告しました。小学 1 年生から空手を始めた伊礼さんは、これまでに優勝 12 回、準優勝 3 回を誇る期待の星。指導する剛柔流獅空会の田村正人会長は「県内の小学生で組手日本一はまだいない。琉愛さんはその座に最も近い選手」と太鼓判を押します。伊礼さんは 2 月 27 日から神奈川県で開催される全国大会（全日本少年少女空手道選抜大会）へ出場します。「日本一」の称号をかけた、嘉手納の小さな勇者の挑戦に、大きな声援をお願いします！

嘉手納中学校吹奏楽部、日米交流合同コンサートで躍動！

1 月 18 日、沖縄サントリーアリーナで開催された「日米交流合同コンサート」に、嘉手納中学校吹奏楽部（24 名）が出演しました。このコンサートは、音楽を通じて地域住民と在日米軍関係者の相互理解を深める交流事業です。嘉手納中学校は、軽快なリズムの『新宝島』と、高難度の名曲『ライラック』の 2 曲を披露。日頃の練習で磨いた個々の技術をを結集させ、会場を一体にする見事な演奏を届けました。

2年間の成果、堂々披露　中央公民館まつり開催

1 月 25 日、ロータリープラザで「令和 7 年度嘉手納町中央公民館まつり」が開催されました。2 年に一度の晴れ舞台に、受講生たちの二年分の情熱が溢れました。ステージでは「学びの成果、ここに集結」を合言葉に、三線や琉球舞踊、合唱、各種ダンスが披露され、観客を圧倒。展示部門でも陶芸や書道、タティングレースなど、丹精込めた「心の作品」が会場を彩りました。また、ヨガや健康マージャンの体験コーナーも盛況で、見学者からは「次は自分も挑戦したい」との声も。2 年間の研鑽を称え合う、笑顔あふれる一日となりました。

「学び」を「絆」へ。 中央公民館は技術を磨くだけでなく、共に語らい、地域を広める拠点です。出演者の皆さんの「達成感」と、来場者の皆さんの「始めたいという一歩」。 この二つが重なり、嘉手納の新しい日常がまたここから始まります。